



WE LOVE ふくしま



JA伊達みらいの管内位置図



モモの栽培に適したJA伊達みらい管内

果樹王国ふくしまの祈り

福島県中通り地方北部に位置する伊達市、国見町、桑折町。これら一市二町を管内とするJA伊達みらいは、年間百億円を超える販売実績があります。その販売額の五〇%以上を占めるのが、モモを中心とする果実です。福島県は、モモの生産量が山梨県に次いで全国第二位を誇り、中でもJA伊達みらい管内で生産されるモモは玉



◀ J A伊達みらい
桃生産部会国見支部の
井砂善栄支部長

張りがあり、色ツヤが良く、甘いと評判。その品質の高さから皇室献上品として扱われている程です。

夏場の日中は三十七〜三十八度、朝方は二十度という気温差の大きい盆地特有の気候が、モモの糖度を上げ、着色を良くする自然条件が備わっています。忘れてならないのは、生産者のモモづくりに懸ける熱意。栽培農家は「おいしいモモが育つように」と春夏秋冬、剪定や摘蕾・摘花・摘果・防虫などの作業に労を惜しみません。しかし、昨年三月に起こった東日本大震災に伴う原発事故が、農家に大きな打撃を与えることになりました。

根強い風評被害、売れない福島県産

「風評被害の影響で昨年の売上は平年の半分でした。やはり、贈答用や個人のお客さまからの注文がなかったことが大きいですね」。国見町でモモを栽培する井砂善栄さんは、



◀ J A伊達みらい営農生活部
指導販売課指導係主査の
芳賀武志さん

悔しそうに話します。実際、昨年の福島県産モモは糖度が高く上出来だっただけに、残念な思いをした栽培農家は井砂さんだけではありません。皆、震災後の不安な状況の中、果樹園の手入れをしてモモの生育を見守ってきたのです。

そこに飛び込んできたのが、福島県内の畜産農家が肉用牛に与えた稲わらから、放射性セシウムが検出されたという報道。七月のことだったので、当然、モモへの影響も懸念されました。そして予想通り、福島県産モモの値崩れは現実のものとなりました。「昨年のモモの売上高は例年の三分の二と予想以上に落ち込みました。その反面、出荷量は例年の三割も多く出荷されました。これは、栽培農家のお得意様だった個人客が注文を見送ったことに伴い、売り切ることができないモモを J A に出荷した結果、J A の取扱量が例年の三割増しと増量、さらに消費者の放射性物質に対する不安要素による買い控えの結果だと思います」。J A

伊達みらいの芳賀武志さんは、そう分析します。JA伊達みらいが出荷するモモは、出荷する全てのモモについて、放射性物質の全戸検査を行い、安全性の確認を実施したもののだけが市場へと届けられます。つまり、私たちが普段スーパーなどで目にするモモは問題ない、はずなのですが風評被害の根は深く、いまだ栽培農家に影を落としています。

生きる希望を守るための除染作業

JA伊達みらいは、昨年十二月から今年三月にかけて、管内の全果樹園の除染作業を実施しました。「多くの組合員が参加し、約二千六百名が三八九チーム編成で作業にあたりました。モモは高圧洗浄機を使って除染しますが、ブドウや柿など粗皮のある樹は粗皮削りも行いました」と芳賀さん。井砂さんは「冬の寒い中、一枝ごと高圧洗浄機で樹皮を洗浄する作業は本当に辛かった。しかも、上枝は足場



◀高圧洗浄機による
桃の除染作業の様子



◀ “わが子”のように
大切に育てられる
桃の樹

を使わないと届かない場所にあり、雪で足をすべらせ足場から落下してケガをした人もいました」と振り返ります。栽培農家は生き残りを懸け、力を合わせて必死に除染活動に取り組みました。すなわちそれは、フルーツ王国 福島、のブランドを守ることにつながるのです。

手間ひま掛けて育てられる福島のモモ

JA伊達みらい管内のモモが、ブランドモモとしてその品質を誇ってきたのには理由があります。安全・安心の取り組みとして、「性フェロモン剤」を使い農薬の使用量を削減。「果樹園に性フェロモン剤を充満させることで、害虫のオスが攪乱してメスにたどりつけず子孫を残せない。だから害虫が減り農薬を削減できるんですよ」と井砂さん。また、光センサー選果機を導入し、糖度を保証しています。芳賀さんは「平成二年から選果機を導入しています。当時

は反射式といってモモの表面を測定していましたが、現在使用している光センサー選果機は透過式でモモの中まで測定できるんです」と、説明してくれました。

福島で栽培されるモモの代表品種「あかつき」は、緻密な肉質そして甘みが強いのが特徴です。さらに「伊達の蜜モモ」は、収穫したあかつきの中でも糖度十五度以上と特に甘いモモだけが厳選される、まさに「幻のモモ」とも言われる最高級品。これは最新鋭の光センサー選果機によって、極上の甘さと品質が保証されたモモをお客さまにお届けできるのです。

ほかにも春の霜対策として、防霜ファンを取り付ける果樹園もあります。国見営農センターでは九年前に導入しました。井砂さんは、「霜は自然災害だけど、人災とも言われるんです。ファンを取り付けるなど努力することで防ぐことが可能ですからね」と話します。



◀果樹園に取り付けられた防霜ファン



▲左からJA 伊達みらい国見営農センター所長の池田直人さん、井砂さん、国見営農センター指導係主査の長澤正弘さん、芳賀さん。90 日後に収穫を迎える果樹園を訪れました。

栽培農家にとってはわが子同然のモモ。手間ひまかけて育てたわが子の先行きを心配するのは当然です。今年の福島県産モモは例年通り順調に生育し、八月上旬に収穫時期を迎えます。「市場で売られるモモは、万全のチェック体制で安全性が認められたもののみです。安心して食べてほしいですね」と、芳賀さんと井砂さんは胸の内をそう語ります。

JA伊達みらいが誇る 「桃」を味わいませんか

■「桃」のご注文・お問合せ先

電話番号：024-575-0113

〈受付時間〉 平日9:00～17:00

(担当：西戸)

Eメール：mitsumomo@jadamirai.or.jp

インターネットからご注文をお願いします。



「伊達の蜜桃」で検索して下さい。

<http://www.rakuten.co.jp/datemirai/>

伊達の蜜桃

検 索

クリック

